



ともに明日へ

県庁をもっと身近に感じていただくために ～県庁本庁舎の公開～



神奈川県知事
黒岩祐治

8月14日から16日まで、県庁の本庁舎を夜間公開しました。夜間の庁舎公開は初めてでしたが、延べ8,000人の方にお越しいただき、たいへんなにぎわいとなりました。若手職員の提案から始まったこの企画、県庁を身近に感じていただくきっかけにしたいと思います。

県庁を身近に感じていただきたい

「キングの塔」の愛称で親しまれている県庁の本庁舎。関東大震災で焼けた庁舎に代わる4代目として、昭和3年に建てられ、クイーンの塔(横浜税関本関庁舎)、ジャックの塔(横浜市開港記念会館)とともに、横浜三塔として横浜のシンボルとなっています。

“県庁を身近に感じていただくために、この本庁舎を、もっと活用できないか” - 県庁の若手職員のこうした思いをきっかけに、庁内でプロジェクトチームを作り、さまざまなイベントで庁舎公開を盛り上げる取り組みが始まりました。

今年のゴールデンウィークには、4日間連続で公開し、旧議場での映画上映、県内高校生のチアリーディングや弦楽演奏のほか、横浜港を眼下に見渡せる展望レストランも初めて休日営業を行いました。このほか拉致問題啓発アニメ「めぐみ」の上映、パネルやパンフレットによる県の取り組み紹介など盛りだくさんの内容で、4日間で延べ1万9千人の方にお越しいただきました。

初めての夜間公開も実施

8月14日から16日までの3日間は、初めての夜間公開を行いました。屋上では、ビールなどの飲み物もご用意して、横浜港の夜景を楽しんでいただきました。また、最終日には、次々に移り変わる光の文様で本庁舎を染め上げる「デジタル掛け軸」を実施したほか、高校生の和太鼓、警察の音楽隊、中国の獅子舞などにも参加していただき、その日は、夜間だけの公開にもかかわらず約4,500人の方に来ていただきました。庁舎内は、人また人、正面玄関も旧議場も屋上も、たくさんの方であふれていました。こんなに多くの方が一度に県庁に集まったというのは、これまでありませんでした。

開かれた県庁のシンボルとして

この庁舎公開は、職員の意識にも変化をもたらしました。何をやっているのか、とかく分かりにくいと言われがちな県庁。一人ひとりの県民の皆さんと直接向きあう仕事が、市町村と比べて少ないことが原因かもしれません。

けれども、今回の公開によって、県庁と県民の皆さんとの距離感が一気に縮まったように感じました。

秋以降も、続々とイベントを企画しています。乳がんの早期発見・早期治療を目指すピンクリボン運動の一環として、10月24日から4日間、本庁舎をピンクにライトアップし、24日には点灯式と夜間公開を行います。

11月17日には「畜産フェスティバル」とタイアップし、庁舎公開に合わせて神奈川の畜産フード食べくらべなどのイベントを行います。(詳しくは[4面](#)をご覧ください)

若手職員たちがアイデアを膨らませ、多くの県庁職員が汗をかいてスタートさせたこの取り組み。これを単なるお祭りに終わらせず、本庁舎を開かれた県庁のシンボルとして、県を身近に感じていただく取り組みをもっともっと発展させていきたいと思ひます。

[このページの先頭へもどる](#)

[県のたよりトップページへもどる](#)

神奈川県 県民局 暮らし県民部 広報県民課

〒231-8588 横浜市中区日本大通1
[電話]045(210)3662[ファックス]045(210)8834
[県のたよりに関する問い合わせフォーム](#)

神奈川県 このページの所管所属は [県民局 暮らし県民部 広報県民課](#) です。

[サイトポリシー・免責事項・著作権](#) | Copyright(C) -2010 Kanagawa Prefectural Government. All rights reserved.